

カラカラカツーン、トボーン

宮城県

むがす、むがす、あつとごぬ、おじいさんがいました。

ある日のこと、おじいさんは、山へたきぎをとりに行きました。ひと仕事^{しごと}してから、ため池のそばでいっふくしていると、池のはたに生えているかしの木から、かしの実が、ひとつ、

「カラカラカツーン、トボーン」と、池に落ちて、水の面^{おもて}に、輪^わがひとつ、ふたつ、みつと広がりました。

つづいて、また、かしの実がひとつ、

「カラカラカツーン、トボーン」と、池に落ちて、水の面に、輪がひとつ、ふたつ、みつと広がりました。

つづいて、また、かしの実がひとつ、

「カラカラカツーン、トボーン」と、池に落ちて、水の面に、輪がひとつ、ふたつ、みつと広がりました。

つづいて、また、かしの実がひとつ、

「カラカラカツーン、トボーン」と、池に落ちて、水の面に、輪がひとつ、ふたつ、みつと広がりました。

．．．．．

．．．．．

．．．．．

村上郁再話

資料『むがすむがすあつとごぬ』佐々木徳夫／未来社